

»» ご 報 告

平成23年度 第97回 全国図書館大会 多摩大会
第6分科会 専門図書館 「多様で多彩な専門図書館！」で
松竹大谷図書館の紹介発表をいたしました

発表者：須貝弥生

平成23年10月13日～14日、(社)日本図書館協会が主催する全国図書館大会が東京多摩地区で開催されました。

13日は全体会、基調講演、シンポジウム、懇親会が行われ、14日は18の分科会に分かれて報告・講演等の活動が行われました。その中の第6分科会「専門図書館」は聖蹟桜ヶ丘駅すぐそばの関戸公民館で開催されました。

日頃名前は聞くが詳しいことは知らない、また専門が違うのでどんな図書館があるのか知らない、というような専門図書館を紹介する事例発表で、

1. 民音音楽博物館音楽ライブラリー
2. 大宮法科大学大学図書館
3. 松竹大谷図書館
4. 農林水産研究情報総合センター
5. 日本医学図書館協会及び東邦大学医学メディアセンター

の発表がありました。各団体の持ち時間は55分。聴衆は約40名で、昼食を挟んで朝10時から午後4時過ぎまでの分科会でした。

発表の内容は以下のとおりです。

1. 民音音楽博物館音楽ライブラリーは、クラシック音楽及び民族音楽に関する資料を収集し、図書や雑誌のほかに楽譜やレコードなどの視聴覚資料を所蔵している。また、博物館として古い楽器も所蔵し、それを演奏して聞かせるコンサートも行っている。音楽関係の図書館には音楽図書館協会という組織があり、(音大の附属図書館が多く参加)日本十進分類法を基にした分類のしかたなども基本形を共有するなどして、相互協力を行っている。
2. 大宮法科大学大学図書館は、日本にロースクールが設置され、それぞれの学校に図書館も作られたが、法律の資料に明るい図書館員が少ないと報告。また、裁判員制度の発足により、法律の情報に関して調べにいく人も増えると考えられ、公立図書館の図書館員にもこのスキルが求められるので、法律関係の図書館で作っている「法律図書館連絡会」は法律資料を扱う図書館員の専門知識の習得のための研修を行っている。法律関係の図書館は唯一無二の資料を扱うのではないが、図書館員のリサーチの能力が必要ということだった。
4. つくばにある農林水産研究情報総合センターは、農林水産省の機関で、農林水産研究情報センターと農林水産研究計算センターが統合され、国内外の研究情報を効果的・効率的に収集・提供することを目的とし、情報の収集・保管、データベースの整備をおこなっている。農林水産研究分野のデータベースを作成すると共に、それらを横断検索できるような検索システムについても研究・整備しているようだ。また、国会図書館の分館としての役目も担って、広く国民や研究者に対し情報を提供している。
5. 日本医学図書館協会は、医学図書館協会の必要性和社会貢献のあり方を具体的な活動によって示すため、医学系の学会から“診療ガイドライン”の作成を委託され、委員会を作ってこのサービスを行っている。

また、医療関係者だけではなく一般の人が医療情報を検索し入手するためのデータベースサービスのあり方を検討するため、医学雑誌Web版に関する調査や、公立図書館が医療や健康情報に関する図書を選定するに当たってのノウハウを示す研修を行っている。

東邦大学メディアセンターは、大学病院に勤務する医師は医学図書館のサービスを楽しむことができるが、地域の開業医や病院に勤務する医師はそうではない現実をふまえて、地域医療に従事する医師への大学による情報支援の方向性を検討している。地域の開業医に対してアンケートやインタビューを行い医師たちの現状やニーズを分析する作業を続行中。

当館は松竹大谷図書館の沿革、資料内容、整理方法、利用案内、資料展示などについて紹介し、最後に図書館法上の私立図書館に関して、図書館法改正により現在文部科学省で検討されている「図書館の設置及び運営上望ましい基準」は今まで対象としていた公立図書館ばかりでなく、私立図書館に対しても設けられることを報告しました。公共図書館の中に公立図書館と私立図書館があり、私立図書館はそれぞれ設立・運営の理念をもち、自主・自律で活動し、社会に奉仕するものであると確認して報告を終了しました。

音楽図書館、法律図書館、医学図書館はそれぞれ同種の図書館での連携があり、効果的に外部に働きかけ、図書館の存在価値をアピールしようとしています。当館はユニークな演劇・映画の専門図書館で類似の図書館は少なく、その様な連携はなかなか望めないことを残念に思いました。今後はより広報に努めて図書館の存在を知ってもらうようにしたいと思います。

»» **新着資料案内** 新しく受入れた資料をご案内いたします

■ **松竹系 10月公演資料** ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
新橋演舞場	『源平布引滝 義賢最期』	○	○	○	○
	『銘作左小刀 京人形』	○	○		
	『江戸っ子繁昌記 御存知一心太助』	○	○		
	『通し狂言 當世流小栗判官』	○	○		
日生劇場	『傾城 吉原絵巻』	○		○	○
	『藤娘』				
	『楊貴妃』				
三越劇場	『女の一生』		○	○	○
	新派アトリエ公演『女の一生』				
	アトリエ新派朗読公演『鶴八鶴次郎』	○		○	
南座(京都)	『歌舞伎十八番の内 矢の根』			○	○
	『新作歌舞伎 墨染念仏聖 法然上人譚』	○			
	『連獅子』				
松竹座(大阪)	『美女はつらいの』			○	○
御園座	『南総里見八犬伝 芳流閣の場・利根川の場』	○		○	○
	『一條大蔵譚 檜垣・奥殿』	○			
	『三代目中村又五郎・四代目中村歌昇襲名披露口上』				
	『寿曾我対面』	○			
	『双蝶々曲輪日記 角力場』	○			
	『棒しばり』	○			
	『歌舞伎十八番の内 助六由縁江戸桜』	○			
地方巡業	『大阪ざらい物語』	○		○	
	『お祭り提灯』	○			

ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします

(新規登録資料案内 続き)

■ 他社公演資料 ■

青山劇場	9月	『髑髏城の七人』プログラム、台本
赤坂RED/THEATER	9月	『ダブルアルバム』プログラム
大阪新歌舞伎座	10月	『島田洋七の佐賀のがばいばあちゃん』プログラム 『わたしは誰?!』プログラム
紀伊國屋ホール	9月	『普天間』プログラム、台本
金峯山寺境内	10月	『吉野芸能祭金峰山寺奉納歌舞伎』プログラム
国立劇場小劇場	10月	『国立劇場第一五六回邦楽公演 上方の芸・江戸の芸』プログラム 『日本雅樂會第50回雅樂公演』プログラム
国立劇場大劇場	9月	『日本の太鼓 受けつぎ、伝えるひびき』プログラム
	10月	『通し狂言 開幕驚奇復讐譚』プログラム、台本
国立文楽劇場	9月	『聲明 満ちあふれる“声”を聴く』プログラム
シアタークリエ	9月	『ゲゲゲの女房』プログラム
シアターグリーンBIG TREE THEATER	10月	『クルーシブル るつぽ』プログラム、台本
THEATRE1010	10月	『Side Show サイド・ショウ』プログラム
シアタートラム	9月	『ウエアハウス』プログラム
渋谷区文化総合センター大和田伝承ホール	9月	『友情 秋桜のバラード』プログラム
自由劇場(四季)	9月	『思い出を売る男』プログラム
テアトルエコー	9月	『セパレート・テーブルズ』プログラム
帝国劇場	10月	『細雪』プログラム
天王洲銀河劇場	9月	『ブルース・イン・ザ・ナイト』プログラム
俳優座劇場	9月	『幽霊人命救助隊』プログラム、台本
博多座	10月	『天童よしみ特別公演』プログラム、ポスター
博品館劇場	9月	『さん生3年プロジェクト2年目の無謀な挑戦』プログラム 『ミュージカル わだつみのこえ』プログラム 『IMAGINE 9.11』プログラム 『第4回セントラル・ダンスショー』プログラム 『石松と土佐のよばれたれ 森の石松外伝』プログラム
パルコ劇場	9月	『新・幕末純情伝』プログラム
明治座	10月	『大奥 第一章』プログラム、台本

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『一命』	○	○	○		○

■ 映画プログラム ■

『ハングオーバー!! 史上最悪の二日酔い、国境を越える』	『スマグラー おまえの未来を運べ』
『キャプテン・アメリカ ザ・ファースト・アベンジャー』	『カウボーイ&エイリアン』
『サラリーマンNEO 劇場版(笑)』	『モンスター上司』
『日輪の遺産』	『ワイルド・スピード MEGA MAX』
『未来を生きる君たちへ』	『イースターラビットのキャンディ工場』
『ハウスメイド』	『カウントダウンZERO』
『監督失格』	『アンフェア the answer』
『はやぶさ/HAYABUSA』	『DOG×POLICE 純白の絆』
『モテキ』	『猿の惑星:創世記(ジェネシス)』
『ミケランジェロの暗号』	『ライフ ーいのちをつなぐ物語ー』
『夜明けの街で』	
『ピラニア3D』	
『神様のカルテ』	
『サンクタム』	
『スマーフ』	
『リミットレス』	
『幸せパズル』	

(新規登録資料案内 続き)

■ 演劇雑誌 ■

『あぜくら』平成23年10月号

『文学座通信』2010年10月～2011年11月

『舞踊芸術』2011年10月号

『Confettiかわら本』2011年11月号

『伝統文化新聞』2011年(65号)

『演劇界』2011年11月号

〔《特集》歌舞伎に挑む若者たち 潜入! 国立劇場歌舞伎俳優研修所 [講師インタビュー] 澤村田之助 中村時蔵 市川團蔵 [修了生に聞く、研修所の思い出] 市川春猿 《インタビュー》中村東蔵〕

『義太夫』89、90、92号

『悲劇喜劇』2011年11月号

〔《特集》最近の舞台から～俳優篇～ 《インタビュー》波乃久里子 《掲載戯曲》『家電のように解り合えない』岡田利規/『トータル・リビング 1986-2011』宮沢章夫〕

『ひろば』2011年119号

〔《特集》六十年目に向かって 田中千津子(神戸演劇鑑賞会)/教育の場での演劇 飯田克衛(横浜演劇研究所)/もう四十年 中村洋一(舞台衣裳家)〕

『邦楽の友』平成23年11月号

『ほうおう』2011年12月号

〔《インタビュー》中村時蔵 《特集》新派四季暦 来春の新派は“小津・山田・新派”コラボレーション作品、待望の第二弾『東京物語』で幕開き!〕

『JPL』2011年Autumn No. 43

〔《特集》日独交流150周年記念イベント 平和の光のメッセージ/新歌舞伎座新開場記念 中村美律子デビュー25周年記念公演/五大路子ひとり芝居 横浜ローザ 赤い靴の娼婦の伝説〕

『喝采』2012年2月〔《特集》博多座二月公演:二月花形歌舞伎 市川亀治郎インタビュー〕

『国立演芸場公演ガイド』平成23年11月号

『民藝の仲間』2010年6月-7月号～2011年10月号

『長唄』109号

『日本芸術文化振興会ニュース』平成23年11月号

『日本照明家協会雑誌』2011年10月号

〔《インタビュー》阿部吉之助さんに聞く 《特集》LEDスポットライト・フラッドライトの開発/ここまで来た太陽光発電とLED照明(前編)/演出照明用調光装置の共通データ規格を考える～COMOS編～〕

『日本舞踊』63巻11月号

〔《特集》秘曲・新曲サロン 大和楽 たけくらべ/舞踊写真教室 俣奏楽 雪の山中(上)〕

『日本劇作家協会会報 ト書き』@とうほく

『おもだかニュース』2010年9月号～2011年10月号

『大向う』平成23年11月号

『ラ・アルプ』2011年11月号

〔《特集》開幕レポート 『劇団四季ソング&ダンスThe Spirit』『コーラスライン』『ウィキッド』『オペラ座の怪人』/『キャッツ』8000回の歴史は、全国の皆さんに支えられて…。〕

『シアターガイド』2011年12月号

〔《特集》「演じ続ける俳優たち」松本幸四郎 市村正親 山口祐一郎/第三舞台封印解除&解散公演「深呼吸する惑星」/平成中村座「十一月大歌舞伎」片岡仁左衛門〕

『匠の技 歌舞伎座をつくる』4号

〔《特集》新しい歌舞伎座の心柱を建込む/フォト・ドキュメント「現代の工法が歌舞伎座の伝統を支える」/「私と歌舞伎座」河竹登志夫/匠たちの証言/歌舞伎座建築学 《インタビュー》宮本洋一〕

『たまごとひよこ』39号

『テアトロ』2011年11月号

〔《特集》日本列島演劇だより/自分史演劇ヒストリー 《掲載戯曲》「切り子たちの秋」ふたくちつよし /「草鞋を履いて」福田善之〕

(新規登録資料案内 続き)

■ 映画雑誌 ■

『ドラマ』2011年11月号

[[掲載シナリオ]]『UN1GO (アンゴ)』一、二話 會川昇／『新十郎捕物帖 快刀乱麻』二、十三話 佐々木守／『おしゃべりな夏』わかぎゑふ]

『映画テレビ技術』2011年11月号

[[特集]]三谷幸喜「short cut」の録音／長編ドキュメンタリー映画『ひとにぎりの塩』

『映画時報』2011年10月号

[[特集]]第24回東京国際映画祭全容／ディズニー・ジャパン2012～13年LINE-UP]

『映画秘宝』2011年12月号

[[特集]]あなたの知らない宇宙人映画大図鑑／途中からでも入り込める海外ドラマ講座]

『映像+』2007 SUMMER 01 [[特集]]人形アニメーションの現場]

『映像+』2007 WINTER 02 [[特集]]美術・セットデザインの現場]

『映像+』2008 SPRING 03 [[特集]]特殊造型・メカニカルの現場]

『映像+』2008 SUMMER 04 [[特集]]ショート・フィルム・CMの現場]

『映像+』2009 SPRING 06 [[特集]]キャラクターデザインの現場]

『映像+』2009 SUMMER 07 [[特集]]巨大マシンの現場]

『映像+』2010 SPRING 08 [[特集]]人形アニメーションの現場 2]

『映像+』2010 SUMMER 09 [[特集]]特殊メイク・アーティストの現場]

『映像+』2011 SPRING 11 [[特集]]ミュージックビデオとCMの現場]

『衛星劇場プログラムガイド』2011年11月号

『エキブ・ド・シネマ』2011年No. 184 [「やがて来たる者へ」]

『FLIX』2011年6月号No. 208

[[特集]]大野智『映画怪物くん』／生田斗真『源氏物語 千年の謎』／山田孝之『指輪をはめたい』／岡田将生&榮倉奈々、松坂桃李『アントキノイノチ』／金子ノブアキ&賀来賢人『シャッフル』]

『藝術学研究』2011年21号

[[特集]]英雄としての放蕩息子 齊藤栄一／メディア通念の臨界「メディア化」とは何か 長谷川一]

『キネマ旬報』2011年10月下旬特別号

[[特集]]夫婦を描く、病を撮る「ツレがうつになりまして。」佐々部清 [監督] 宮崎あおい 堺雅人／対談 藤原竜也×香川照之／第7回映画検定 問題と解答]

『キネマ旬報』2011年11月上旬号

[[特集]]笑力特集 もっと笑いを! 「ステキな金縛り」三谷幸喜、深津絵里／伊藤四朗、笑いの真髓を語る／日本の喜劇映画の系譜：高平哲朗／妻夫木聡／「カウボーイ&エイリアン」]

『民間放送』1864号～1878号

『NFCニューズレター』2011年10月～11月号 [[特集]]映画女優 香川京子]

『NFCカレンダー』2011年11月～12月号

『日経エンタテインメント!』2011年11月号 [[特集]]あのお話作の舞台裏]

『ピクトアップ』2011年12月号73号

[[特集]]映画『怪物くん』堂々公開! 大野智 川島海荷×濱田龍臣 八嶋智人×上島竜兵×チェ・ホンマン／〈はやぶさ〉をめぐる競作映画 3人のプロデューサーが語る!／藤原竜也／山田孝之／生田斗真]

『SCREEN』2011年12月号

[[特集]]「ハリー・ポッターと死の秘宝 PART 2」／ブラッド・ピット「マネーボール」／ジャッキー・チェンと円熟の香港アクターズ]

『シナリオ』2011年12月号

[[掲載シナリオ]]『サウダーヂ』相澤虎之助 富田克也／『恋谷橋』井上正子 後藤幸一]

『シナリオ教室』2011年11月号

[[特集]]時代劇スペシャル鼎談「こんなに時代劇は面白い」山本むつみ・風野真知雄・柏田道夫 《掲載シナリオ》『塚原ト伝』第1回・第2回 山本むつみ]

『友 Iwanami Hall』2011年秋号No. 371

[[特集]]イタリアと映画 安藤裕康／《日本映画と私》シグロ設立25周年 山上徹二郎]

『映画芸術』2011年秋号(437号)

[[特集]]原田芳雄、追想／追悼 馬場当／座談会『アントキノイノチ』&『恋の罪』]

(新規登録資料案内 続き)

■ 書 籍 ■

『第23回東京国際映画祭公式記録 [2010年]』
『広場をつくる 日本の仮設劇場の半世紀展』
『品格と色気と哀愁と』
『ふかいことをおもしろく 創作の原点』
『紫 藤間紫写真集』
『小津安二郎と戦争』
『播磨屋画がたり』
『ANNUAL REPORT 2011』
『井上ひさし』
『菊田一夫の仕事 浅草・日比谷・宝塚』
『写真で見る芸文協のあゆみ1972-2010』
『ステージ・PA・照明用語事典』
『ステージ・舞台照明入門 舞台の基礎からDMX、ムービングまで』

森繁久彌 (著)
井上ひさし (著)
市川猿之助 - 3世 (著)
田中真澄 (著)
中村吉右衛門 - 2世 (著)

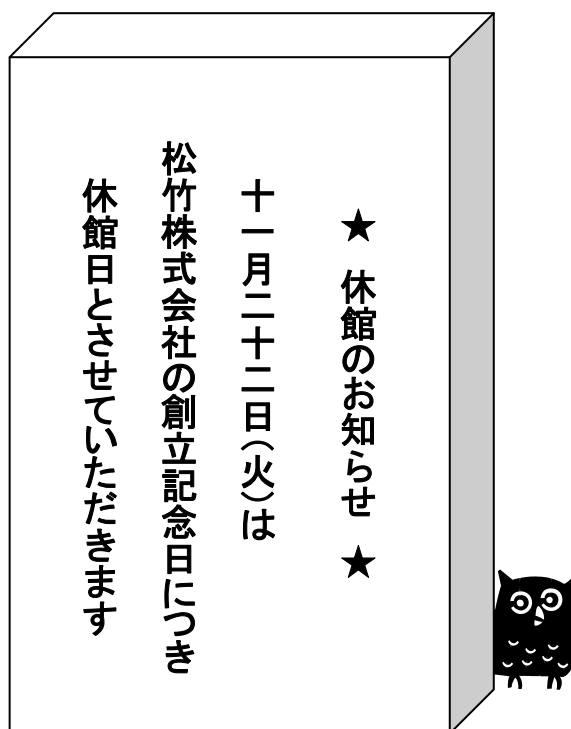
扇田昭彦 (責任編集)
井上理恵 (著)

江見千尋 [等] (執筆)

藤井直 (著)

日本映像国際振興協会 (第23回東京国際映画祭実行委員会)

早稲田大学演劇博物館
朝日新聞社
PHP研究所
春秋社
みすず書房
毎日新聞社
Shochiku
白水社
社会評論社
富山県芸術文化協会
リットーミュージック
リットーミュージック



『アマデウス』
平成23年11・5～11・25
ルテアトル銀座にて上演!

● 所蔵資料展示案内 ● 第16回『アマデウス』展

展示期間:2011年10月28日～11月21日 於:松竹大谷図書館閲覧室

今月は当館所蔵資料の中から『アマデウス』に関する資料を展示致します。天才音楽家モーツァルトの人生を、同時代の作曲家サリエーリの視点から描いた『アマデウス』、日本初演は29年前の昭和57年で、これまで主な劇場で13回の公演があり、当館にもそれだけの資料が蓄積されています。この29年の間に、モーツァルトは江守徹・市川染五郎・武田真治、そしてコンスタンツェは藤真利子・渡辺梓・藤谷美紀・馬淵英里何・内山理名とキャストが引き継がれてきましたが、主役のサリエーリは松本幸四郎が前回の公演まで実に400回演じ続け、この11月のルテアトル銀座公演でさらに401回目からの記録を更新していきます。当館では、過去の公演のうち7公演の舞台写真を所蔵しており、同じシーンのそれぞれの公演での違いや、各キャストの有名シーンを見る事ができます。また、台本も7公演、プログラムは全公演所蔵しております。台本・プログラム・舞台写真はカウンターで請求いただければ全て閲覧が可能なので、過去の公演の様子を閲覧室でお楽しみいただけます。また、物語にどっぷりと浸りたい方には、戯曲はいかがでしょうか。日本語訳は初演でモーツァルトを演じた江守徹です。ロンドンでの初演後間もなく劇作家の飯沢匡からロンドン版の本を借りた江守徹は、そのあまりの面白さに一気に読み終えたと戯曲のあとがきに書いています。英文の戯曲も所蔵しておりますので、英語に自信のある方は是非読み比べにチャレンジしてみてください。

【アマデウス 公演の記録】

1. 昭和 57 年(1982) 6/8～7/11 サンシャイン劇場
2. 昭和 58 年(1983) 5/12～6/12 サンシャイン劇場
3. 昭和 58 年(1983) 12/4～12/27 日生劇場
4. 昭和 60 年(1985) 10/4～10/27 国立文楽劇場
5. 昭和 61 年(1986) 5/10～6/15 サンシャイン劇場
6. 平成 5 年(1993) 8/15～8/22 北海道厚生年金会館
7. 平成 5 年(1993) 8/28～9/26 サンシャイン劇場
8. 平成 7 年(1995) 9/8～9/24 新神戸オリエンタル劇場
9. 平成 7 年(1995) 10/1～10/27 サンシャイン劇場
10. 平成 10 年(1998) 4/25～5/17 サンシャイン劇場
11. 平成 10 年(1998) 5/22～5/26 愛知県芸術劇場
12. 平成 10 年(1998) 12/3～12/26 日生劇場
13. 平成 16 年(2004) 5/5～5/27 ルテアトル銀座
14. 平成 23 年(2011) 11/5～11/25 ルテアトル銀座



『アマデウス』上演プログラム

—『アマデウス』関連資料展示一覧—

♪『アマデウス』演劇スチール♪

- ◎ 昭和57年6月～7月 サンシャイン劇場上演
 - サリエーリ(九代目松本幸四郎)・モーツァルト(江守徹)
 - サリエーリ(九代目松本幸四郎)
- ◎ 平成5年8月～9月 サンシャイン劇場
 - モーツァルト(七代目市川染五郎)・コンスタンツェ(渡辺梓)・サリエーリ(九代目松本幸四郎)
- ◎ 平成7年10月 サンシャイン劇場
 - サリエーリ(九代目松本幸四郎)
- ◎ 平成10年4月～5月 サンシャイン劇場
 - サリエーリ夫人(杉浦悦子)・サリエーリ(九代目松本幸四郎)・モーツァルト(七代目市川染五郎)
 - コンスタンツェ(藤谷美紀)・モーツァルト(七代目市川染五郎)
- ◎ 平成10年12月 日生劇場
 - サリエーリ(九代目松本幸四郎)・モーツァルト(七代目市川染五郎)

♪『アマデウス』上演台本・プログラム♪

- サンシャイン劇場昭和57年6月～7月上演台本・プログラム
- サンシャイン劇場平成5年8月～9月プログラム
- ルテアトル銀座平成16年5月上演台本・プログラム

♪『アマデウス』その他資料♪

- 『アマデウス』映画プログラム (1984年、アメリカ、ミロス・フォアマン監督作品)
- 『AMADEUS』戯曲[英文] (Peter Shaffer, 1984, New American Library)
- 『アマデウス』戯曲 (ピーター・シェファー作・江守徹訳、新装版 昭和59年12月発行、劇書房)

映画『アマデウス』のプログラム
・プレス・ポスター・スチールも
所蔵しています

音響と映像のアーカイブ フランス国立視聴覚研究所（INA）ダニエル・テルツジ氏講演会

2011年10月19日 14:00～17:00 国立国会図書館 東京新館講堂

【講演】ダニエル・テルツジ氏（INA調査研究部長）

【鼎談】ダニエル・テルツジ氏+大路幹生氏（株式会社NHKエンタープライズ）+長尾真氏（国立国会図書館長）

出席者：飯塚 美砂

世界的に多種多様なメディアが発達しつつある今日、文字資料のみならず、映画、映像、写真など放送やネットで流されたものも含めたデジタルアーカイブへの関心が高まっている。BBC（英国国営放送）やCBC（カナダ国営放送）、わが国のNHKでも自局で放送したものを保存し、インターネットでの閲覧や二次使用に供しはじめているが、その先駆となっているのがフランスのINA（フランス国立視聴覚研究所）である。

1974年にアーカイブの集束を目指して創設されたINAは、ラジオフランス本部にある。1999年、書籍の納本制度に当たるラジオ・テレビ放送番組の法定納入が法律化され、これによってフランス国内で放送されたものはすべてINAでアーカイブされることになった。（映画、写真、レコードは1925年から法定納入化されている。）近年はデジタル素材での納入だが、それ以前より収集していたコレクションは媒体の劣化（フィルムのカビやビネガーシンドロームなど）が考えられるため速やかにデジタル化する必要がある。2015年までにすべてのコンテンツのデジタル化を終える予定である。また、デジタル化されているものも媒体のキャリア化（次々と新しい方式が生まれることにより、旧来の機器で再生保存出来なくなること）に対応して数年ごとにデータ変換しなくてはならないが、その際のオリジナルとの品質の分析比較も必要となってくる。

INAには、収集した映像、音楽などを保存するだけでなく、公開し活用していくという使命も課せられている。まず、2006年には2000万ユーロを投資し、世界中から利用できるインターネットサイトを立ち上げた。85万以上のコンテンツがあり、個人の閲覧は自由である。<http://www.ina.fr/>

また商業的な使用にも対応する。1974年の法律でそれ以前にINAが収集していたコレクションの所有権はINAに帰属することとなり、これらのコレクションで得られる収入はすべてINAのものとなる。また、それ以降に法定納入制度で収められたものの商用権は当面はINAには無いが3年経過すれば、権利はINAのものとなる。

INAの管理する映像を、映画、テレビ番組、DVD、インターネットのサイトなどへ利用する場合は、インターネットで必要なものを検索し、INAに事前に許可を求めINAは各利用者に利用料を請求する。映像の部分使用も可能である。

2010年の時点でINAの資金は12000万ユーロ。これは国民から徴収する放送受信料の3%（7400万ユーロ）と、これらの商業活動の利用料によってなりたっているものだろう。

コレクションの中から迅速に必要な映像の検索のため、またオンエアされている映像がINAのコレクションから出たものかどうか判別するため（不正使用を監視）の技術も強化している。デジタル保存やコレクション活用の技術の開発のための人材育成にも力を注いでいる。

日本においても、NHKが放送した映像、音声についてアーカイブを進めているが、INAは保存するだけでなく積極的な活用を念頭においており、規模・予算も大きい。現在、知的財産が世界的に注目されているが、著作権への意識の高まりから二次使用が難しく、逆に閉塞的になっている国が多い。文化国家を自負するフランスは、法律をもっていち早く映像や音声を二次使用する際の制約を簡潔にし、迅速に対応することで知的財産を最大限に活用しようとかんがえている。問題点はまだ色々あるだろうが、長期的展望に基づいた計画の壮大さ、膨大な予算にはただ感服するばかりであった。

編集・発行 公益財団法人 松竹大谷図書館 〒104-0045 東京都中央区築地 1-13-1 ADK松竹スクエア3階
Tel 03-5550-1694 <http://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/>